

臨床研修センターだより



Vol.47 2018.1.31

●G-ICU、E-ICU、感染症科での研修

当院の臨床研修プログラムでは、2年間で約9ヶ月の自由選択期間を設けています。ローテートをした事のない診療科を選択したり、一度ローテートした事のある診療科を「もう少し深く経験したい」と再度選択したりと様々ですが、2年次のみ選択する事の出来る診療科があり、その中でもG-ICU、E-ICU、感染症科は人気で選択する研修医が多いです。

G-ICUでは麻酔科、E-ICUでは救急部が中心となり、各部門との密接な連携をとって治療にあたっています。集中治療部で多種多様な重症患者管理を経験する事ができます。感染症科では、総合内科と連携しながら感染症診療の原則について研修します。グラム染色や培養検査の解釈、抗菌薬の適正使用について学ぶことができます。

とても人気の診療科となっており、12月にローテートした研修医の先生方にコメントをいただきましたので、写真とともに紹介します。

G-ICU

GICUでは、術後管理と病棟での重症患者を診ます。術後管理は主に心臓血管術後の患者さんを担当します。そういった患者さんはもともとの心臓の機能異常がある場合が多く、厳密なボリューム管理が求められます。また、経過の中でもボリュームが必要な時期、利尿が必要な時期が数日で変動します。GICUローテではそういった患者背景の理解、ボリューム管理において体重、バイタルなど古典的な指標に加えて肺動脈カテーテルの解釈、カテコラミン類や利尿薬の使用が求められ、これらを自分で考える過程を朝のカンファレンスで先生方から指導を受けることができ、有意義な時間が過ごせました。(森)

ICUは選択期間のある2年次研修医にとって最も人気のある科で、ローテート順を決める際は毎年衝突が起きます。ほぼすべての研修医がE・GICU両方を選択しますが、好みや上級医との相性や志望科に左右され、研修医室でもよく議論になります。GICUでは術後患者の特殊な管理をしている印象ですが、内科系重症患者も多く入室し、by systemに評価し、鑑別診断を立て、必要な検査や治療を行う思考過程は内科外科を問いません。Intensivistたちにプレゼンする際は矢ぶすまに面する気持ちですが、主治医たる主科と決して衝突しない姿勢を貫きつつも、必要な処置を提案しタイミングを失わないスタイルは、カッコイイです。需要の増す集中治療に協力的な医師を育成する上で、ICU研修は大きく役立っていると私は思います。(山田(翔))



感染症科

これまで困ることが多かった感染症患者の抗菌薬の選択、治療期間などのマネジメントについて学ぶために感染症科を選択しました。当科では、他科からコンサルトを受けた患者(主科だけでは対応困難な難しい症例が多い)についてエビデンスに基づいて適切なマネジメントを考え、治療方針を提示します。また感染症診療だけを考えるのではなく、患者背景もふまえて最終的なゴールを見据えたマネジメントが必要となるため非常にタフでやりがいのある業務だと感じました。指導医は厳しく指導熱心であり、常に緊張感を持ったいい研修となりました。(片山)



裏面へ続く

E-ICU

E-ICUでは、1ヶ月みっちり人工呼吸管理や循環動態の把握、そしてアセスメントに対する治療介入を実臨床に則して学びました。敗血症、ARDS、多発外傷など、これぞICUという重症患者を担当するとともに、予想以上に医療の倫理に接し、患者さん、ご家族、私たち医療従事者、社会、そして医学、道徳の面から意思決定を考える機会が多くありました。毎日私たちの教育に多くの時間を割いてくださった先生方、E-ICUのスタッフの皆様にご感謝申し上げます。(舩本)

入室対象となる疾患はバラエティに富み、多発外傷から重症内科疾患まであらゆる疾患を診ることが出来ます。1年次の間はE-ICUをローテートすることは出来ず、集中治療とは何ぞやと思いつつも実地で学ぶ機会はありませんでしたので、今回楽しみにしていました。日々刻々と変わる病状について議論しながら診療を進めるのは学ぶことが多く、非常に楽しいです。また重症度が高いということで機械的サポートを必要とすることも多く、人工呼吸器や持続的腎代替療法など一般病棟では関わることの少ないデバイスについての勉強が捗ります。月末まであと少しですが頑張ります。(山田(あ))



●レジデンピック

1月某日。第1回レジデンピックの本選が開催されました。レジデンピックとは、リーズンホワイ株式会社 Residenpic 事務局が主催となり、研修医としての力を試すクイズチャンピオンシップです。まずは予選であるオンラインクイズに挑戦し、上位24名(十次点候補2名)が本選へ進みます。予選へのエントリー数は308名で、当院から4名の研修医が参加し全員が見事予選を通過し本選へ進みました。本選では病院の枠を超え3人1チームでのチーム戦が行われました。知力、瞬時の対応力、プレゼン能力など医師に必要な力を試す内容だったそうです。そして、2年次の城田先生が所属するチームが優勝、森先生が所属するチームが3位入賞するという素晴らしい結果となりました。

即席のチームにも関わらず、3人のチームワークがとても良かったので、その結果だと思います。本当に嬉しいです。(城田)
/レジデンピック HP より引用



城田 Dr.
優勝
おめでとうございます!



写真提供/リーズンホワイ株式会社 Residenpic 事務局